

<第101回調査>

2017年10月30日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2017年10月17日(火)13:00～2017年10月24日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は625件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

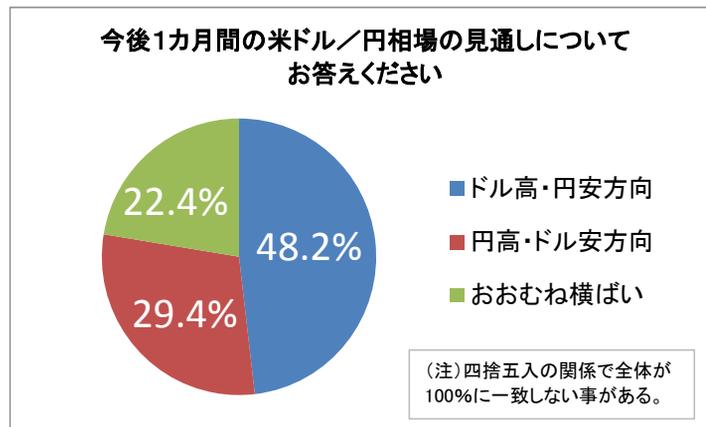
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第101回調査結果略報：米ドル/円の強気見通しを維持】

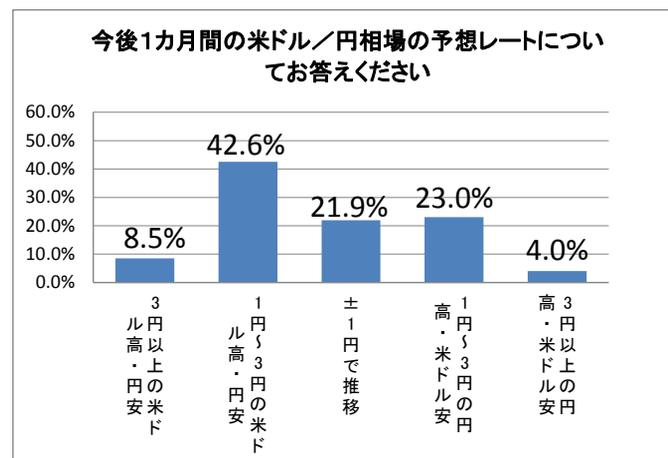
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が48.2%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は29.4%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△18.8%ポイントとなり、3カ月連続で強気見通しを示すプラス圏を維持した。調査期間中の米ドル/円相場は、一時約3カ月ぶりに114円台に上昇するなど堅調に推移。トランプ米政権による税制改革への期待や、本邦衆院選で与党が大勝した事などが米ドル買い・円売りを後押しした。米連邦公開市場委員会(FOMC)が年内の追加利上げを行う公算が大きい事もあって、個人投資家の米ドル強気・円弱気見通しは保たれているのだろう。なお、北朝鮮問題を強く懸念する向きは少数である事も伺える。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が42.6%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安(23.0%)」、「±1円で推移(21.9%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(8.5%)」、「3円以上の円高・米ドル安(4.0%)」の順になった。ヒストグラムの形状は、米ドル高・円安方向に傾いており、問1の結果と整合的と言えよう。ただ、今回も真ん中の「±1円で推移」が低いのが特徴的だ。もみ合い相場を予想する向きは少なく、ボラティリティ(変動率)の上昇を予見している投資家が多いと解釈できる。

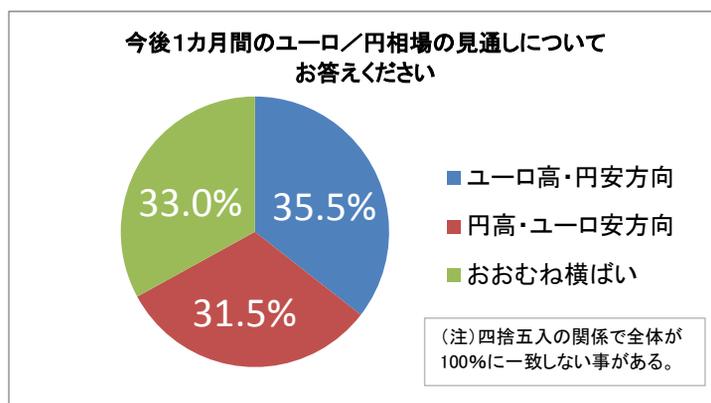


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

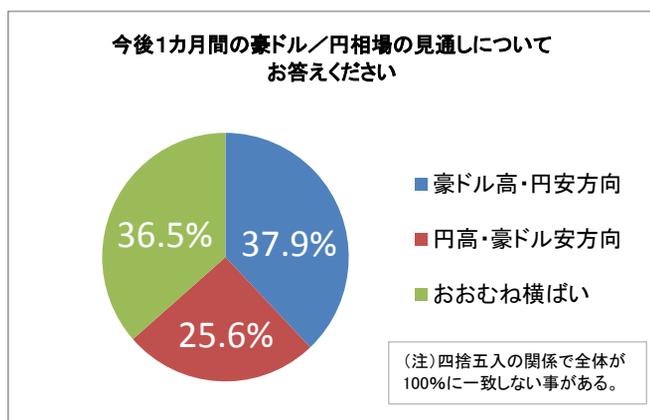
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が35.5%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が31.5%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は $\Delta 4.0\%$ ポイントと、プラス圏を維持したが前回($\Delta 22.4\%$ ポイント)からプラス幅が縮小した。調査期間中のユーロ/円は、132円割れの水準から134.10円台へと持ち直す場面もあった。しかし、量的緩和の縮小計画が発表される公算の欧州中銀(ECB)理事会(26日)を前にしても個人投資家のユーロ強気見通しは高まらなかったようだ。9月にも134.40円台に上昇した後に失速しており、この水準をチャート上の上値抵抗として意識しているのかもしれない。※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が37.9%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は25.6%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は $\Delta 12.3\%$ ポイントとなり、前回($\Delta 18.2\%$ ポイント)からプラス幅は僅かに縮小したが、豪ドル強気見通しを6カ月連続で維持した。調査期間中の豪ドル/円相場は、世界的に株価が上昇する中、89円台を一時回復するなど堅調だったが、株高の割には上値が重かったとも言えるだろう。「おおむね横ばい」予想の割合が高いのは、そうした見方が表れているのかもしれない。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。

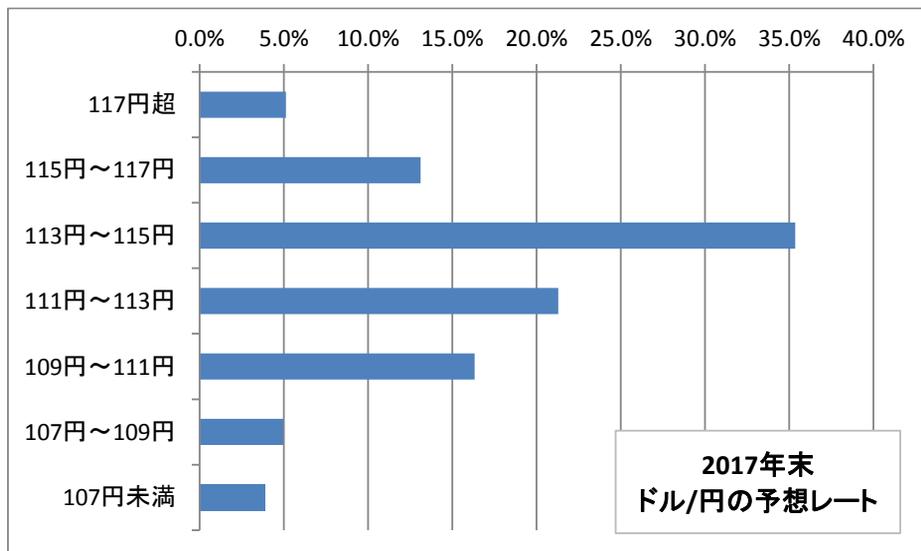


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6: 2017年12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「2017年12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「113円～115円」が35.4%と最も多く、以下「111円～113円(21.3%)」、「109円～111円(16.3%)」、「115円～117円(13.1%)」、「117円超(5.1%)」、「107円～109円(5.0%)」と続き、「107円未満」にも3.8%の回答があった。調査期間中の米ドル/円相場が112円～114円で推移していた事を考えれば、米ドル高・円安方向に向かうとの予想がやや多く、問1や問2に沿う結果と言えるだろう。その理由を自由記述形式で尋ねたところ、「アメリカの継続利上げで日米金利差が拡大」や「アメリカの税制改革と日本のアベノミクスで株高が継続」のほか、「年末のドル高」というアノマリーを挙げる向きもあった。一方、米ドル高・円安を予想した向きからは、「トランプ政権の不安定さ」、「北朝鮮リスクで円安方向には進みにくい」、「ドルは12月の利上げで出尽くし売りが強まる」などとの回答が寄せられた。

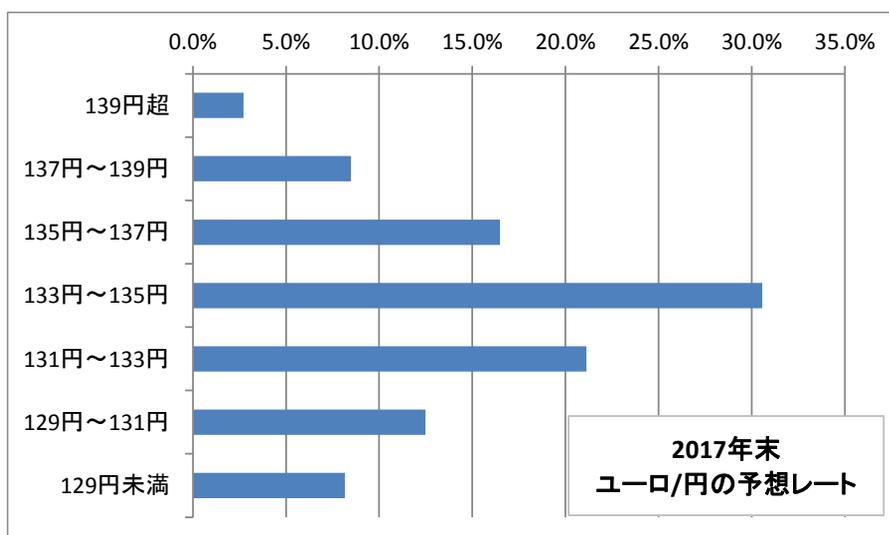


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7: 2017年12月31日ニューヨーククローズ時点のユーロ/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)

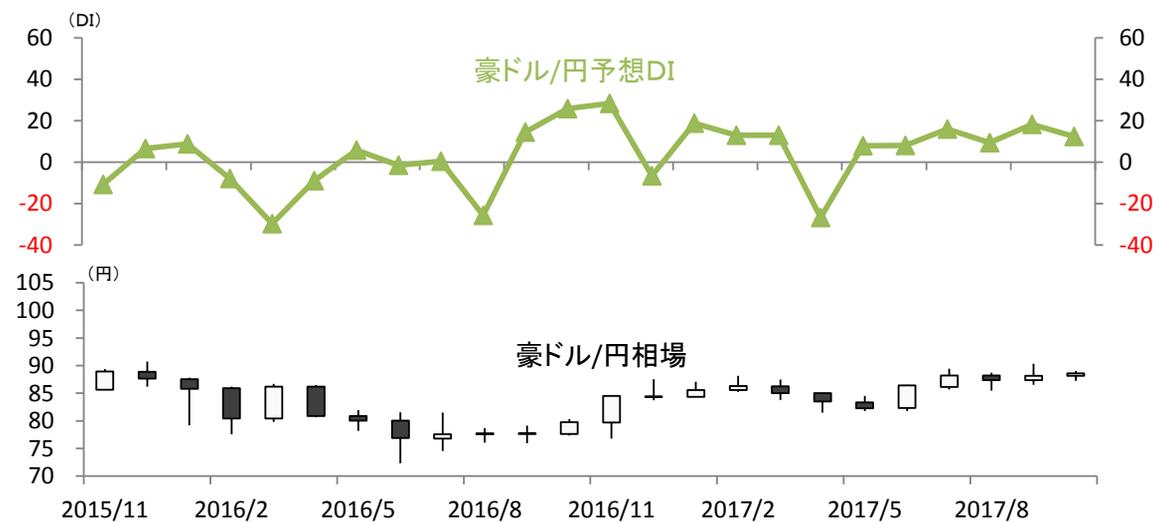
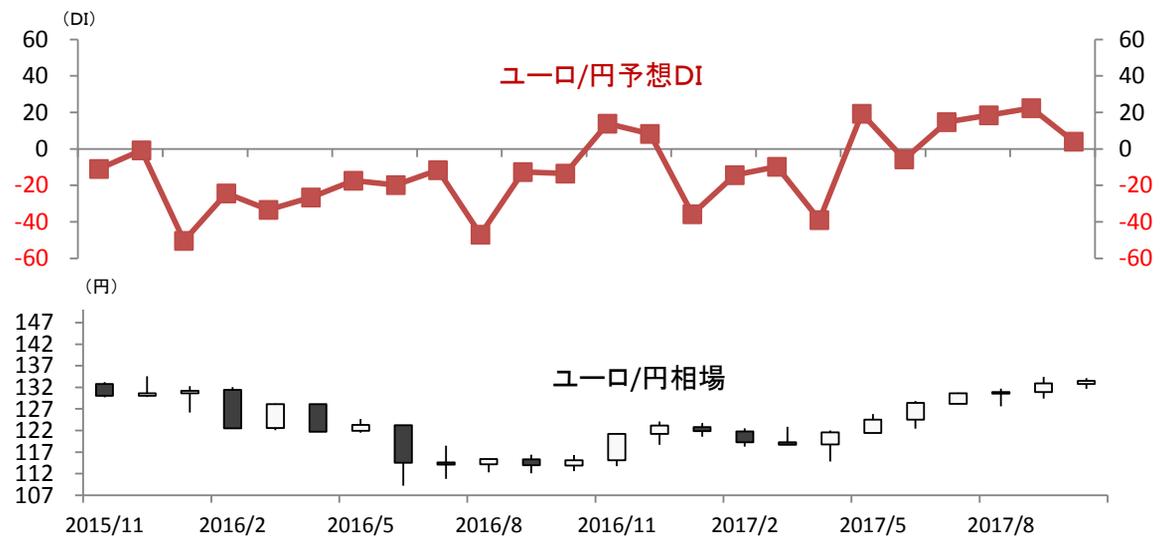
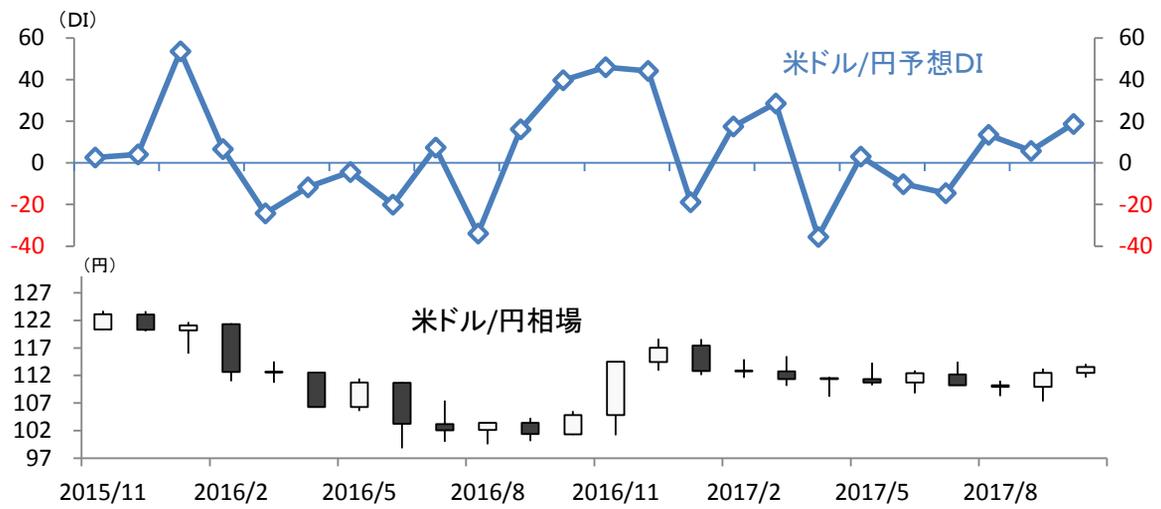
今回のもうひとつの特別質問として、「2017年12月31日ニューヨーククローズ時点のユーロ/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「133円～135円」が30.6%と最も多く、以下「131円～133円(21.1%)」、「135円～137円(16.5%)」、「129円～131円(12.5%)」、「137円～139円(8.5%)」、「129円未満(8.2%)」、「139円超(2.7%)」と続いた。調査期間中のユーロ/円相場は133円台を中心に推移しており、どちらかと言えばユーロ安・円高方向見通しが優勢という結果となった。こちらも、その理由を自由記述形式で尋ねたところ、ユーロ弱気派からは「経済は悪くないが、テロや難民問題が重し」、「米ドルの上昇によりユーロが下落」などとする回答が寄せられた。なお、「131円～133円」と予想した向きからは「米ドル/円は上昇するが、ユーロ/ドルは下落するためユーロ/円は横ばい」との見通しが出ていた。また、ユーロ強気派からは「欧州中銀(ECB)と日銀の金融政策の方向性の違い」との指摘があった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第101回目を迎えました。調査開始から8年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2015年	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4
2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6
	2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
	3月	53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0
	4月	21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8
	5月	38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9
	6月	33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0
	7月	30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9
	8月	45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4
	9月	40.8	35.0	5.8	44.4	22.0	22.4	40.9	22.7	18.2
	10月	48.2	29.4	18.8	35.5	31.5	4.0	37.9	25.6	12.3

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com